

令和6年度 学校経営計画・学校評価			☑4月4日提出	☑10月3日提出	☑3月14日提出	学校番号	23	高知北	高等学校	課程	通
高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人		基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備							
	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○ 高校を卒業したいという強い意志をもった生徒。 ○ 自分らしく学び、高校生活を送ることで成長したいという思いをもった生徒。 ○ これまでの自分と違う新しいことにチャレンジしたいと願う生徒。 ○ 多様な背景をもった一人一人の違いを認め、ともに成長しようとする生徒。			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○ 共通講座・特別講座を受講することで学びの幅を広げる。 ○ 高卒認定試験等を活用することで、単位認定が可能となる。 ○ ピアサポーター(高知大学生)の活用により、生徒の不安の解消や学習支援を実施。 ○ ハートフルドア事業を活用し、教育・医療・福祉の視点から生徒の成長を支援する。 ○ 生徒会活動(リーダー研修)や特別活動等を推進し、生徒自ら主体的に考え、判断し、行動できる場面を設定する。							
スクール・ポリシー	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○ 他者の生き方を認め、自分自身の存在を前向きにとらえようとする心を育てる。 ○ 社会で自立して生きるために必要となる基礎学力を育成する。 ○ 社会生活に必要な社会人としての基礎力・社会性・コミュニケーション力を育てる。 ○ 最後まであきらめず、チャレンジする気持ちを育てる。										

学校関係者評価		
【学力の向上】	評価	【 A 】
・学校評価アンケートの「教員は分かりやすい授業に努めているか」の質問項目に対する生徒・保護者の肯定的回答が非常に高く、満足している様子がうかがえる。		
【社会性の育成】	評価	【 B 】
・「社会性」そのものが多様化している状況の中で、取組の方向性が明確になっているので、成果として現れる時期も近いのではないかと思う。		
【チーム学校】	評価	【 A 】
・魅力ある学校づくりのために、進路保障、個別支援、教育相談に組織として力を入れている。また、働き方改革も進み、教職員の長時間勤務が解消されている。		

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分											
		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】		見直しのポイント【A】	
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	○定期試験受験者割合70%以上。(令和5年度夏季82%、年度末70%) ○不活動(教科登録をしない生徒)の減少。(令和5年度7%)	○定期試験受験資格に必要な各科目のレポート提出をスクーリング時や「すぐーる」で促す。 ○単位修得に向けて必要な情報を北高通信等で知らせる。 ○授業規律(遅刻、スマートフォン)の徹底。	A	○定期試験受験者84.4% ○不活動生徒5%	○「すぐーる」や「北高通信」等を利用し、必要な情報を生徒に知らせ、継続して学習に取り組ませる。	A	○定期試験受験者72.6%(令和5年度70%) ○不活動生徒5%(令和5年度7%) 2つの項目とも改善された。	各教科担当やホーム担任が継続して学習を続けることができるよう声をかける。また不活動の生徒にも連絡し、登校するきっかけを作る。	
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○「自分という存在を大切に思える」肯定的回答60%以上。(令和5年第1回63%) ○「将来の夢や目標をもっている」肯定的回答70%。(令和5年第1回68%)	○特別活動(校外スクーリング、レクリエーション大会等)への参加を北高通信やすぐーる等で呼びかける。 ○リーダー研修(生徒会)で仲間づくり。	C	○「自分という存在を大切に思える」肯定的回答81.7% ○「将来の夢や目標をもっている」肯定的回答30%	○スクーリング時に直接生徒に働きかけたり、様々な方法で生徒に連絡し、継続して特別活動に参加するよう促す。	B	○「自分という存在を大切に思える」肯定的回答70%(令和5年度66.6%) ○「将来の夢や目標をもっている」肯定的回答70%。(令和5年度91.6%)	行事等の振り返りや、北高通信で他の生徒の取組を知らせ、自己・他者理解を深め、卒業後の進路について考えさせる。	
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」肯定的回答:50%以上。(令和5年度第1回52%)	○北通祭の案内、北高通信の回覧を町内会に依頼し、学校行事に参加してもらう。 ○卒業予定者の受講科目「人生設計」で自己理解を深め、専門学校や地元企業について学習する。	C	○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」肯定的回答14.5%	○学校行事や校外スクーリング等を通じて、地域との関わりを学ぶ。	C	○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」肯定的回答:37.1%(令和5年度75%)	様々な特別活動を企画し、参加を呼び掛ける。また、北高通信等を通じて成果を伝える。	
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○「人生設計」の単位修得者80%以上。(令和5年度79%)	○卒業予定者の受講科目「人生設計」で自己理解を深め、専門学校や地元企業について知る。 ○様々な申込(定期考査、特別活動等)を利用し、書類の書き方や提出期限について指導する。		○「人生設計」の単位修得者84%	○人生設計の授業やレポートを通じて、担任や進路指導部が連携して生徒に働きかける。		○「人生設計」の単位修得者70%(令和5年度:79%) 年度途中に必要な卒業単位数が修得できない生徒が増加した。	ホーム担任、教科担任等のそれぞれの立場から学校全体で単位の修得に向けた指導を行う。	

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】		見直しのポイント【A】	
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○進路保障 ○教育相談体制の充実	○進路未定者35%以内。(令和5年度35%) ○生徒情報共有会:年3回以上。	○進路指導部とホーム担任等が連携して生徒に働きかけ、進路未定を防ぐ。 ○外部関係機関との連携を行い、必要な支援を行う。	B	○進路未定者29% ○生徒情報共有会2回	○進路決定や単位修得につながるよう生徒情報を関係者と共有する。	B	○進路未定者61%(令和5年度35%) ○生徒情報共有会:年3回(令和5年度年3回)	生徒の多様な背景を共有して関係機関との連携を行い、卒業後の進路を考えさせる。	
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題:誤送付をしないための確認方法があり、再確認しながら作業を行う。 ○校内研修の実施回数、年3回以上。 ○不祥事防止委員会の実施回数、年3回以上。	○個人情報を取扱う場合の確認体制について全体で共有してから作業をする。 ○研修内容を業務に活かす方法について協議する。 ○情報共有等を速やかに行う。		○現状課題:誤送付はない。 ○校内研修の実施回数年3回 ○不祥事防止委員会の実施回数年3回	○今後も継続して確認方法を全体で再確認してから作業を行う。 ○改善点がないか確認しながら作業を行う。		○現状課題:送付等の手順について、個別に確認をする必要がある。 ○校内研修の実施回数年3回 ○不祥事防止委員会の実施回数4回	不祥事防止のための研修を行い、個別に確認を行う。	
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ・勤務時間の管理 ・業務の効率化	○長時間勤務者(45時間)0人を継続する。	○勤務状況一覧の未入力や長時間勤務者がいないか毎月確認する。 ○「すぐーる」を生徒への連絡手段の一つとして利用する。 ○ICTの活用、会議等でのペーパーレス化。	A	○長時間勤務者(45時間)0人	○各分掌等で定期的に業務内容を確認し、次年度に向けて提案を行う。	A	○長時間勤務者(45時間)0人	分掌業務の見直しや関係機関と連携する。	